

2018年度 事業計画

2018年4月 1日から
2019年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

2018年3月作成

所 信

リオデジャネイロオリンピックが終わり、東京オリンピックに向けた第1年目となる2017年度は、主要事業が概ね順調に遂行され、2018年度を迎えることとなります。ここに加盟団体の皆様をはじめ、協賛スポンサーや多くの関係団体の皆様のご支援ご協力に対し、心より感謝と御礼を申し上げます。

2018年度の事業計画にあたっては、東京オリンピックまで残り2年となり、オープンウォータースイミング（OWS）を除く4競技が出場する8月のアジア大会を最重点大会とし、また、自国開催となる8月のパンパシフィック選手権大会（競泳・OWS）が、2020年に向けて強化および競技運営面においても極めて重要な大会として位置づけます。競泳、飛込、水球、アーティスティックスイミング（AS）、OWS 全部門において、東京オリンピックに向けて取り組むべき課題を明確にし、選手強化、国際競技力の向上を目指します。また、「水泳ニッポン・中期計画2017-2024」に基づき、世界選手権大会（2021年）、パリオリンピック（2024年）をも視野に入れた、次世代の選手たちの育成・強化にも取り組み、国内強化合宿の充実、より高いレベルで戦える選手の育成、選手層の拡充を図ります。

競技運営事業につきましては、各競技の日本選手権を中心に、東京オリンピックを見据えた国際基準の質の高い運営に取り組んでまいります。また、競技役員・国際審判員の養成、学生補助役員の育成等国内競技会の更なる充実を図り、主管団体と連携して、全国で統一した高いレベルの競技会を実現致します。

指導者養成事業では、2019年に迫った指導者制度改定に向けて、指導者養成3委員会での協議を深め、指導者の資質・能力向上に取り組んでまいります。普及事業としては、『水泳の日』の2回目となる地方開催（福島県）を実施致します。中央開催で蓄積した企画運営のノウハウを集約し、今後も、日本各地、地域ブロック単位で開催してまいります。水泳の楽しさを子どもたちに伝えるだけでなく、水難事故防止と水泳ファミリーの拡大につながるよう取り組んでまいります。また、スポーツ庁の国際貢献事業『SPORT FOR TOMORROW』や国際水泳連盟（FINA）の『Swimming For All・Swimming For Life』プログラムと連動した、水泳を通じた国際貢献事業の実施を検討してまいります。

総務事業では、これまで同様にガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底、自主財源の確立、マーケティング活動を推進致します。広報では、水泳競技に対する注目度を高めるため、ファン目線を取り入れ、より正確に、より迅速な対応を推進してまいります。情報システムでは、競技者登録管理システムを刷新し、機能改善に取り組みます。これら組織の基盤強化を図りつつ、スポーツ庁、（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本オリンピック委員会等の関係機関・団体とも連携強化・協働を図り、競技団体としての価値向上に取り組んでまいります。

最後となりますが、本連盟を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況であることを認識しなければなりません。2024年の本連盟創立100周年、日本水泳界の未来の100年に向け、各加盟団体との情報共有および意思疎通を図り、オールジャパン体制をより強固なものにしてまいります。皆様のなご支援ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

2018年3月3日

会長 青木 剛

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競技会	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
競 泳	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	パンパシフィック選手権大会	◎			
	アジア選手権大会			○	
	世界選手権大会 (25m)	○		○	
泳	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会	○			
	世界ジュニア選手権大会		○		○
	ジュニアパンパシフィック選手権大会	○		○	
飛 込	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	FINAワールドカップ	○	○		
	アジア選手権大会			○	
	FINAワールドシリーズ	○			○
	ユースオリンピック	○			
	グランプリ大会	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会				○
世界ジュニア選手権大会	○		○		
水 球	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	アジア選手権大会	○		○	
	FINAワールドリーグ	○	○	○	○
	FINA男子ワールドカップ	○			
	アジアエージ選手権大会 (U17)		○		○
	アジアジュニア選手権大会 (U19)	○		○	
世界ユース選手権大会 (U18)	○		○		
世界ジュニア選手権大会 (U20)		○		○	
アー テ ィ ス テ ィ ッ ク (A S)	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会	◎			
	アジア選手権大会			○	
	オリンピック大会予選会			○	
	ワールドシリーズ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
アジアエージ選手権大会		○		○	
タ ー プ ン ウ オ ー (O W S)	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	パンパシフィック選手権大会	◎			
	ワールドシリーズ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
ジュニアパンパシフィック選手権大会			○		

事業の方針

I 競技大会開催事業

2018年度は、東京オリンピックに向けた競技会の一層の充実を目指す年となる。競泳・飛込・水球・アーティスティックスイミング（AS）・オープンウォータースイミング（OWS）の日本選手権を中心に、オリンピック本大会を見据えた国際基準の質の高い運営を目指す。また全国各地で開催される主要大会においても、日本選手権を手本とした企画・運営を行なう。全国大会の開催にあたっては、各大会の開催地および主管・共催団体との連絡調整を密に行ない、企画、立案、運営、予算管理を着実に実施し、準備から大会終了までを統括する。また、日本選手権等への各加盟団体からの役員派遣および主要大会への本連盟からの役員派遣を通して、全国で統一した高いレベルの大会運営を目指す。

1. 国内競技会開催事業

(1) 【競泳競技】

① 日本選手権水泳競技大会 (50m)	4月3日～8日	辰巳国際	東京
② ジャパンオープン2018 (50m)	5月24日～27日	辰巳国際	東京
③ 日本大学・中央大学対抗戦	6月30日	辰巳国際	東京
④ 早稲田大学・慶應義塾大学対抗戦	7月1日	辰巳国際	東京
⑤ 全国国公立大学選手権大会	8月11日・12日	きらら博記念公園	山口
⑥ 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	日本ガイアリーナ	愛知
⑦ 全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	児島マリンプール	岡山
⑧ 全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～26日	辰巳国際	東京
⑨ 日本社会人選手権水泳競技大会	9月1日・2日	ダイエーパレスフェニックス	新潟
⑩ 日本学生選手権水泳競技会	9月7日～9日	横浜国際	神奈川
⑪ 国民体育大会	9月15日～17日	敦賀市総合運動公園	福井
⑫ 世界選手権 (25m) 代表選手派遣選考会	10月27日・28日	辰巳国際	東京
⑬ 全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季大会	3月27日～30日	辰巳国際	東京

(2) 【飛込競技】

① 日本室内選手権大会	6月15日～17日	辰巳国際	東京
② 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	日本ガイアリーナ	愛知
③ 全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	児島マリンプール	岡山
④ 全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～25日	大阪プール	大阪
⑤ 日本学生選手権水泳競技会	9月8日・9日	福山市緑町公園	広島
⑥ 国民体育大会	9月15日～17日	金沢プール	石川
⑦ 日本選手権水泳競技大会	9月21日～23日	辰巳国際	東京
⑧ 全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季大会	3月29日・30日	ダイエーパレスフェニックス	新潟

(3) 【水球競技】

① 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	三重交通Gスポーツ	三重
② 全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～26日	東和薬品ラクトドーム	大阪
③ 日本学生選手権水泳競技会	9月7日～9日	相模原市立総合	神奈川
④ 国民体育大会	9月11日～13日	金沢プール	石川

⑤ 全国女子水球都道府県対抗戦	9月12日～13日	金沢プール	石川
⑥ 日本選手権水泳競技大会	10月5日～7日	辰巳国際	東京
⑦ 全日本ユース(U15)選手権大会	12月24日～27日	倉敷・児島	岡山
⑧ 全日本ジュニア(U17)選手権大会	3月18日～21日	柏崎	新潟
⑨ 全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季大会	3月26日～30日	千葉国際	千葉

(4) 【アーティスティックスイミング競技】

① 日本選手権水泳競技大会	4月27日～30日	辰巳国際	東京
② 日本アーティスティックチャレンジカップ 2018	8月2日～5日	尼崎スポーツの森	兵庫
③ 全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～25日	盛岡市総合プール	岩手
④ 国民体育大会	9月10日	金沢プール	石川
⑤ 日本学生選手権(マーメイドカップ)	9月15日	横浜国際	神奈川
⑥ 13～15歳ソロ・デュエット大会	1月26日	横浜国際	神奈川
⑦ アーティスティックショナルトライアル2019	1月27日	横浜国際	神奈川

(5) 【オープンウォータースイミング競技】

① OWS オーシャンズカップ2018	6月2日	館山	千葉
② 国民体育大会	9月12日	若狭	福井
③ 日本選手権水泳競技大会	9月23日	館山	千葉

2. 国際競技会の開催事業

東京オリンピック(2020年)・世界選手権福岡大会(2021年)に向けた国際競技会の開催を見据え、本年度は、パンパシフィック選手権大会(競泳、OWS)を開催する。競泳ワールドカップ、飛込ワールドシリーズ、ASワールドシリーズも継続開催し、FINAとの連携を更に強固なものとする。また、国際大会への審判派遣も更に拡充する。

(1) 【競泳競技】

① パンパシフィック選手権大会	8月9日～12日	辰巳国際	東京
② スイミングワールドカップ	11月9日～11日	辰巳国際	東京

(2) 【飛込競技】

① ワールドシリーズ2019	3月1日～3日	相模原市立総合	神奈川
----------------	---------	---------	-----

(3) 【アーティスティックスイミング競技】

① ワールドシリーズ2018	4月27日～30日	辰巳国際	東京
----------------	-----------	------	----

(4) 【オープンウォータースイミング競技】

① パンパシフィック選手権大会	8月13日	館山	千葉
-----------------	-------	----	----

3. 各競技委員会事業

(1) マーケティング事業

東京オリンピック(2020年)・世界選手権福岡大会(2021年)の開催に向けて、オフィシャルスポンサー、オフィシャルパートナー、オフィシャルサプライヤー等の各企業との更なる連携を図るとともに、新たな協賛企業の獲得に努める。

(2) 競技事業

本連盟主催大会では、本連盟学生委員会、主要大会の開催地加盟団体、(公財)全国高等学校体育連盟、(公財)日本中学校体育連盟等のスポーツ団体との連絡調整を密に行ない、準備から大会終了までを統括し、全国で統一した大会運営を目指す。本年度は、競泳のパンパシフィック選手権大会が8月に開催される。主管団体の(公財)東京都水泳協会との綿密な連携のもと、円滑な実施を目指す。また、日本実業団水泳競技大会に代わる「日本社会人選手権水泳競技大会」が新規スタートとなる。関係各位の理解・協力を得て、成功裡に実施できるように取り組む。

(3) 学生競技会事業

横浜国際プールで開催される第94回日本学生選手権水泳競技大会、山口きららプールにて開催される第65回全国国公立大学選手権水泳競技大会をはじめとする、全ての学生大会の成功に向け加盟6支部が全力で取り組むとともに、本年度は学生委員会主催の全国学生選抜合同合宿を奄美大島において開催を予定している。また、全国代表者会議を開催(年4回)し、各支部間相互の連絡融和を図りつつ、厳正なる学生水泳競技精神の養成・向上を目指す。東京オリンピックに向け学生補助役員を育成し、日本選手権など本連盟主催の競技会事業に対する学生の派遣を行なう。

II 競技条件整備事業

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備するとともに、各種基盤・インフラを整備し、その水準を維持することにより、更なる水泳競技の普及発展を図る。

1. 競技者登録事業

市場の変化に対応した情報管理および多機能・多目的を追求したシステム基盤の整備を通じて、利便性の高い団体登録情報・競技者登録情報の管理基盤(システム利用環境)の実現を図る。

競技者登録システム(Web-SWMSYS)の再構築を完遂し、各種情報発信サービスの拡充等を通じた団体登録・競技者登録の増加と、外部機関とのシステム連携等による登録料の確実な回収・管理の徹底を図る。

2. 競技規則制定事業

2017年9月の国際水泳連盟(FINA)競技規則の改定を受け、「競泳競技規則」「競技役員の手引き」ならびに各種別の競技規則の改定を行ない、2018年4月1日より施行する。最新版の全種別の競技規則をHPに掲載して情報発信を行ない、全国統一した理解・共通認識のもとで、選手が安心して競技に取り組める環境整備を推進・実施する。

3. 競技役員養成・登録事業

「水泳ニッポン・中期計画2017-2024」に準拠し、全国の競技会をより充実させることを目的に、選手の力を引き出す高いレベルの審判員を養成する。国際基準の眼を培い、「世界トップレベルの水準で、全国で統一された競技会運営」の一層の定着を目指し、本連盟の主催大会における加盟団体競技委員長の実技研修等を継続して行なう。また、例年通り、ブロック研修会なら

びに加盟団体主催の研修会に本連盟より講師を派遣する。東京オリンピックに向けて、競技役員資格取得者16,000人を目標に、本連盟の方針や競技規則が全国各地で浸透するように取り組む。公認競技役員と公認審判員の更新業務を円滑に行なうとともに、管理・活用についての研究を継続する。

4. 競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、管理する事業を行なう。各地で開催される公認公式競技会の3日以内の記録結果報告は、加盟団体の情報システム担当者の協力により順調に推移している。今後は、記録管理系システム環境の整備による、記録ランキングシステムと連携したシステム保全作業の効率化を図る。

5. 施設用具公認推薦事業

競技場となるプールの新規公認および更新登録を行なう。また、競技にかかる施設用具や水泳競技に関連する企業との連携を図り、公認推薦規程に則り、公認推薦事業を行なう。また、国際水泳連盟（FINA）規則の改定に伴うプール公認規則（2018年版）の周知徹底を図る。

6. アンチ・ドーピング事業

（1）主催競技会でのドーピング検査事業

国際的なドーピング防止活動の一環として、（公財）日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と連携し、主催大会においてドーピング検査（競技会検査）を実施する。また、選手の権利を守る立場であるNF代表役員を主要競技大会のドーピング検査会場に配置する。

（2）その他の事業

- ① HP 掲載資料作成、薬の治療目的使用に係る除外措置（TUE）申請に関する書類審査
- ② 強化合宿・研修会等への講師派遣
- ③ 競技会相談担当スポーツファーマシスト派遣
- ④ JADA 会議へのNF代表役員の参加
- ⑤ 競技会におけるアンチ・ドーピング啓発活動（アウトリーチプログラムの実施）

III 選手派遣事業

選手派遣事業は、本連盟の財源はもとより国の補助金や助成金など公的資金を活用することから、費用対効果を含めた評価および報告の義務が課せられる。各派遣の目標達成に向けた計画・準備等をはじめ、東京オリンピック（2020年）および世界選手権福岡大会（2021年）に向けた競技力向上のために強化事業および派遣事業がより効果的に実施されるよう、水泳界の英知を結集して総力戦で臨む。

1. JOC 事業

（1）第18回アジア競技大会

- | | | |
|---------|------------|--------------|
| ① 期間・場所 | 8月18日～9月2日 | インドネシア・ジャカルタ |
|---------|------------|--------------|

② 競技種目・日程

- | | |
|---------------|------------|
| (a) 競泳 | 8月19日～24日 |
| (b) 飛込 | 8月28日～9月1日 |
| (c) 水球 | 8月16日～9月1日 |
| (d) アーティスティック | 8月27日～29日 |

(2) 第3回ユースオリンピック競技大会

- | | | |
|---------|-----------|-----------------|
| ① 期間・場所 | 10月6日～18日 | アルゼンチン・ブエノスアイレス |
|---------|-----------|-----------------|

2. 特別事業

(1) 第13回パンパシフィック選手権大会

- | | | |
|---------|----------|--------------|
| ① 期間・場所 | 8月9日～13日 | |
| (a) 競泳 | 8月9日～12日 | 東京・東京辰巳国際水泳場 |
| (b) OWS | 8月13日 | 千葉・館山市北条海岸 |

IV 選手強化事業

自国開催である東京オリンピック（2020年）および世界選手権福岡大会（2021年）の競技成績で強化5部門が評価される。年度毎に明確な目標を掲げ、東京オリンピックでは競泳は金メダルを含む過去最多メダル獲得、アーティスティックスイミングは銅メダル以上、飛込・水球・OWS はメダル獲得および上位入賞を目指す。そのために月1回の特別強化本部会議を実施して5部門の進捗状況を適確に把握し、年毎に改善・改良・好循環を重ねながら目標達成に邁進する。

1. 競泳強化事業

昨年度の世界選手権大会では、銀メダル4つ、銅メダル3つ、24種目の入賞を果たした。金メダルを獲得できなかったことは課題として残るが、リオデジャネイロ・オリンピックを経験した大橋悠依選手、小関也朱篤選手、渡辺一平選手のメダル獲得は今後を占う意味で明るい材料となった。続く世界ジュニア選手権大会、ユニバーシアード大会では経験者の確実なメダル獲得とともに、初出場の選手がメダル獲得するなど、年代毎の強化としては十分な成果があった。

上記を踏まえて、昨年度は新たな試みとして下期もナショナルチームの体制を維持し、選手たちの目標を明確にするとともに、チームとしての強化にも取り組んだ。本年度はアジア大会、パンパシフィック選手権大会、世界選手権大会（25m）と年間を通して試合があるため、その機会を利用して強化策を実施したい。

ジュニア強化（高校生および中学生）に関しては、8月ジュニアパンパシフィック選手権大会およびオーストラリア遠征に、代表を選考して派遣する方針である。ブロック代表国際大会派遣は、引き続きシンガポールを派遣先として実施する。また、国内強化は中央と地方で行ない、第39回ナショナル強化合宿（中央：12月12日～20日）、ジュニアブロック合宿（10地域）、エリート小学生合宿（年2回、春・秋）を継続して、合宿強化を実施する。昨年度から行なっているジュニア SS 育成合宿も形を変えつつ継続し、全ての強化が縦（ジュニアからシニアへ）に繋がり、横（全国へ）に広がるように展開し

ていきたい。

(1) 国際競技会

① ヨーロッパグランプリ	6月	ヨーロッパ
② パンパシフィック選手権大会	8月	日本・東京
③ アジア大会	8月	インドネシア・ジャカルタ
④ ジュニアパンパシフィック選手権大会	8月	フィジー
⑤ ユースオリンピック競技大会	10月	アルゼンチン・ブエノスアイレス
⑥ 世界選手権大会 (25m)	12月	中国・杭州
⑦ 選抜遠征	2月	オーストラリア
⑧ ジュニア地域代表国際大会	2月	シンガポール

(2) 強化トレーニング合宿

① 海外合宿(シェラネバダ)		
② アジア・パンパシフィック代表合宿	4月・5月・6月・7月	JISS
③ アジア・パンパシフィック高地合宿	6月～7月	シェラネバダ
④ アジア・パンパシフィック平地合宿	6月～7月	イタリア、フランス
⑤ パンパシフィック選手権直前合宿	8月	JISS
⑥ ジュニアパンパシフィック合宿	8月	JISS・未定
⑦ 世界選手権 (25m) 合宿	11月	中国/浜松
⑧ エリート小学生合宿	4月・9月	JISS
⑨ ジュニアSS育成合宿	隔月	JISS等
⑩ インターD合宿	12月	JISS
⑪ ナショナル合宿	12月	鈴鹿・富士等
⑫ インターナショナル合宿	12月・2月	JISS
⑬ 地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県

(3) コーチ派遣・招聘

① ASCA 会議	9月	アメリカ
-----------	----	------

(4) 企画・研修及び講習会

① 全国強化コーチ会議	10月	東京
② ナショナルコーチングスタッフの育成	10月	東京(クリニック)
③ ブロック合宿担当者会議	10月	東京
④ 強化コーチ巡回指導	12月	ブロック各地

(5) 次世代ターゲットスポーツの育成・強化委託事業

2. 飛込強化事業

昨年度は、世界選手権大会(ハンガリー・ブダペスト)で女子高飛込7位入賞・ミックスシンクロ6位入賞、ユニバーシアード大会(台湾・台北)で女子団体銅メダル獲得と、一昨年度に比して僅かながら競技力向上が見られた。東京オリンピックでメダルを獲得するために、本年度は、主要国際大会において昨年度以上の順位成績で上位入賞を

継続して果たしていかなければならない。そのため、ワールドカップ・アジア大会・ワールドシリーズ相模原大会において、個人種目でメダル獲得、シンクロ種目で8位入賞を目指す。

東京オリンピックに向けては、各種目の世界ランキングを作成して他国の戦力分析を行ない、①女子高飛込、②シンクロ3種目（女子シンクロ高飛込・女子シンクロ飛板飛込・男子シンクロ飛板飛込）を重点強化種目として、強化戦略プランに基づき強化を推進する。シンクロ種目を見据えた個の強化（高難易度種目の習得と安定性）および若手選手の育成は、引き続き継続する。昨年度から始まった「有望アスリート海外強化指定事業」も継続し、海外での長期的合宿、強豪国との連携および情報収集に取り組む。

ジュニア強化では、世界ジュニア選手権大会でのメダル獲得を目指す。昨年度のアジアエージ選手権大会において多種目で優勝した勢いを同大会に繋げたい。また JOC 派遣大会のユースオリンピックに高校生を派遣し、上位入賞を目指す。シニアとの合同強化合宿およびシニアの大会（FINA グランプリ大会）への出場を通じて、飛込競技の特性を踏まえた技術力・精神力に長けた勝負強い選手の早期育成を図る。エリート小学生合宿およびエリートアカデミー制度は、JISS・NTC が体操・トランポリン等の他の競技種目の強化拠点でもある利点を最大限活用し、将来有望なエリート小学生およびエリートアカデミー生の強化を集中的に実践する。

(1) 国際競技会

① ワールドカップ	6月5日～10日	中国・武漢
② アジア大会	8月18日～9月2日	インドネシア・ジャカルタ
③ International Youth Diving Meet	4月20日～23日	ドイツ・ドレスデン
④ FINA-GP(カナダ)	5月10日～13日	カナダ・ガティノー
⑤ 世界ジュニア選手権	7月23日～29日	ウクライナ・キエフ
⑥ ユースオリンピック一部自己負担	10月13日～17日	アルゼンチン・ブエノスアイリス
⑦ CAMO International 一部自己負担	TBC	カナダ・モントリオール
⑧ ワールドシリーズ2019	3月1日～3日	神奈川・相模原
以下 何かの GP に一部自己負担派遣		
⑨ FINA-GP(イタリア)	7月6日～8日	イタリア・ボルザノ
⑩ FINA-GP(スペイン)	7月13日～15日	スペイン・TBC
⑪ FINA-GP(マレーシア)	11月9日～11日	マレーシア・TBC
⑫ FINA-GP(オーストラリア)	11月15日～18日	豪州・TBC
⑬ FINA-GP(シンガポール)	11月23日～25日	シンガポール・シンガポール

(2) 強化トレーニング

① ナショナル海外合宿助成事業		
② ナショナル強化国内合宿		
(ア)ワールドカップ強化合宿	5月28日～6月1日	東京辰巳＋JISS
(イ)アジア大会強化合宿	8月20日～24日	東京辰巳＋JISS
(ウ)シンクロ強化合宿	通年	各地
(エ)ワールドシリーズ事前合宿	2019年3月	神奈川・相模原
③ ジュニア強化		
(ア)世界ジュニア事前強化合宿	7月15日～19日	東京辰巳＋JISS
(イ)ジュニア強化合宿	12月23日～26日	三重・鈴鹿
(ウ)エリート小学生強化	10月6日～8日	東京辰巳＋JISS
④ ターゲット選手強化活動		

(ア)板橋美波 海外合宿

12月～1月

中国・上海

- (3) エリートアカデミー活動 通年 JISS+辰巳・千葉国際・青木町公園
- ① ナショナルトレーニングセンターの施設を十分活用し、他競技を含めた専任のトップレベルの指導者による長期的・集中的な競技スキルの指導プログラム
 - ② ライフスキル、コミュニケーションスキルを身につけさせ、社会性、人間性を向上させるための知的能力開発プログラム
 - ③ 共同生活を通じて必要な社会規範を意識させ、日本のトップアスリートと触れ合うことで、競技に対する心構えや態度を養うためのプログラム
 - ④ 国際人として海外で活躍できるようにするための語学教育プログラム
 - ⑤ 基本的な学力の定着を図るための学習（補習）プログラム
 - ⑥ 国際大会派遣による競技力向上ならびに海外選手との交流を図り国際的資質を高めるためのプログラム

(4) 企画・研修会および講習会

- | | | |
|-------------------------------|-----------|------------|
| ① 強化コーチ会議 | 10月大阪・他 | 数回 |
| ② ブロック代表者会議 | 12月1日・2日 | 東京 NTC 会議室 |
| ③ 公認審判員研修会 | | |
| (ア) A 級・B 級公認審判員中央研修会 | 5月・6月・7月 | 数回 |
| (イ) FINA Certification School | 6月14日～17日 | 東京辰巳 |
| (ウ) C 級公認審判員研修会 | 中央研修会後 | 随時 |

3. 水球強化事業

2018年度男女日本代表は、インドネシア・ジャカルタで開催されるアジア大会における男子優勝、女子準優勝を最大の目標とし、同大会の上位2カ国に付与される2019年の世界選手権大会（韓国・光州）への出場権獲得を目指す。また男子代表については、昨年度の世界選手権大会で出場権を獲得した「FINA ワールドカップ」に初出場し、世界ランキング上位国との対戦を通じて実戦強化を図る。代表強化策の主軸として継続10年目となる「FINA 水球ワールドリーグ」では、男女ともにファイナル進出を目指す。強化施策は、男子代表は欧州強豪国のセルビアとハンガリーに強化拠点を置く（ハブ構想）ことにより遠征強化内容を充実させ、女子代表は実力差が縮まりつつある中国を利活用する。代表主力選手の欧州強豪クラブへの長期派遣事業は、対象選手を見直して継続する。強豪国との合同合宿および強化試合は、各都道府県が諸外国と進めている東京オリンピック合宿誘致事業との調整を図り、効果的に実施する。

ジュニアの育成・強化事業では、男子 U18代表チームを世界ユース選手権大会に、男女 U19代表チームをアジアジュニア選手権大会に派遣する。育成世代の国際大会においても、日本代表チームと同一の戦術を使って一貫指導体制を進める。

代表チームの編成については、戦略的な世代交代を進めた結果、東京オリンピックを見据えた対象選手が整いつつあり、競争環境が作られてきている。引き続き、チャレンジャー精神を忘れずに、気を引き締めて強化事業を推進していきたい。

(1) チーム派遣

- | | | |
|----------------------------|------------|-----------------|
| ① 男子ワールドリーグ インターコンチネンタルカップ | 4月3日～8日 | ニュージーランド・オークランド |
| ② 女子ワールドリーグ インターコンチネンタルカップ | 4月3日～8日 | ニュージーランド・オークランド |
| ③ 男子ワールドリーグ・スーパーファイナル | 6月18日～23日 | 未定 |
| ④ 女子ワールドリーグ・スーパーファイナル | 5月28日～6月2日 | 未定 |

⑤ アジア大会	8月18日～9月2日	インドネシア・ジャカルタ
⑥ FINA 男子ワールドカップ	9月11日～16日	ドイツ・ベルリン
⑦ 男子世界ユース選手権大会	8月11日～19日	ハンガリー・ソバトヘイ
⑧ 男女アジアジュニア選手権大会	未定	未定
 (2) 国際大会派遣選手選考委員会		
① ワールドリーグ・スーパーファイナル	2月13日・5月	2017・18年度選考対象試合・他
② アジア大会	6月	2017・18年度選考対象試合・他
③ FINA 男子ワールドカップ	7月	2017・18年度選考対象試合・他
④ 男子世界ユース選手権大会	6月	2017・18年度選考対象試合・他
⑤ 男女アジアジュニア選手権大会	8月	2017・18年度選考対象試合・他
 (3) 強化トレーニング合宿		
① 海外拠点強化合宿 (男女)	6月・7月・1月	セルビア・ハンガリー・中国・豪州
② 国際競技会国内事前合宿	通年	JISS 他
③ ナショナルチーム強化合宿 (男女)	通年	JISS 他
④ 男女ジュニア・ユース研修 (男女)	7月・9月・12月	関東近郊・岡山他
⑤ 海外選手派遣事業	通年	豪州・欧州
 (4) チーム招聘・コーチ招聘		
① 男子スペイン代表・カナダ代表	6月・8月	JISS・山口・岩手
② 女子カナダ代表・豪州代表	6月・8月	JISS
③ 男子中国代表	5月	JISS
 (5) 企画・研修および講習会		
① 男女強化コーチ会議	6月・8月・9月・10月・3月	
② 全国コーチ会議・研修会	10月	
③ 国際情報収集	通年	
④ 日本代表ゲーム分析・評価事業	通年	
⑤ 代表候補選手研修会	4月・11月	
⑥ コーチ研修会	10月	
⑦ 審判指導者合同研修会 (国際トップ審判員の招聘)	10月	
⑧ ジュニア指導者研修会	12月	

4. アーティスティックスイミング強化事業

2017年 FINA 総会において「シンクロナイズドスイミング」が「アーティスティックスイミング」に名称変更されたことにより、本連盟においても2018年度より新名称を適用する。

強化においては、昨年度の世界選手権大会で目標としていた成績を収めることができなかったことから、従来の選手選考・強化方法を大幅に見直し、東京オリンピック特別強化策を打ち出した。選考会を実施せずに要件を満たす選手を代表候補として選考し、これまでの単年強化から2020年までの3年間を見据えた中期視野での強化プランに変更した。2018年の主な強化課題は、①チーム大型化、②身体づくり (切れのあるシャープな動き、ができる身体づくり、可動域向上、脚質強化)、③技術強化 (高さ、シャープさ、正確さ) とする。2017年8月より部分的に代表候補強化をスタートさせ、10月より本格的に合宿強化

を始動、2018年度はワールドシリーズ（WS）を転戦しアジア大会（8月、ジャカルタ）での銀メダル以上獲得を目標とする。

更に、2020および2024大会を見据え、B代表、ジュニア（15～18歳）代表、13～15歳代表の派遣を継続する。B代表はWSアメリカオープン（6月、L.A）、ジュニア代表は世界ジュニア選手権大会（7月、ブダペスト）に派遣し、全種目での表彰台を目標とする。また、2014年秋より開始したジャンパー&セカンド育成プロジェクトを継続し、リフト強化を促進する。ユース年代（11～14歳）については、全国8ブロックより選抜された有望選手を対象にユース有望合宿を実施し、有望選手から大型選手を含むユースエリート強化選手を若干名選抜し、強化合宿ならびに国際大会派遣を通して、次代の中心戦力選手を着実に育てていく。

また、4年おきのFINAルール変更後の最初のシーズンを迎えることから、世界の傾向を研究・分析し、全国への迅速かつ正確な情報伝達を行なう。コーチキャンプ、審判強化研修等を通して、専門知識や指導技術の実践研修を行ない、世界をリードする指導者と審判員の育成に力を注ぐ。

(1) 国際競技会

① アジア大会	8月	インドネシア・ジャカルタ
② FINA ASWS Hellas Beetles	6月	ギリシャ・シロス島
③ FINA ASWS アメリカオープン	6月	アメリカ・ロサンゼルス
④ 世界ジュニア選手権大会	7月	ハンガリー・ブダペスト
⑤ 地中海カップ	7月	スペイン・セビリヤ
⑥ クリスマスプライズプラハ	12月	チェコ・プラハ
⑦ フレンチオープン	3月	フランス・パリ

(2) 強化合宿

① アジア大会代表合宿	4～8月	JISS・大阪
② ミックスデュエット代表合宿	4～6月	JISS・長野
③ 世界ジュニア選手権大会代表合宿	4～7月	JISS
④ アメリカオープン代表合宿	4～6月	JISS
⑤ 2020/2024五輪対策特別強化選手合宿	10～12月	JISS
⑥ ジャンパー&セカンド育成プロジェクト合宿	9～1月	JISS・NTC
⑦ ジャンパー&セカンド育成海外合宿	3月	ロシア・モスクワ
⑧ 全国選抜シニア中央合宿	12月	JISS
⑨ 全国選抜ジュニア中央合宿	12月	JISS
⑩ ユース有望選手特別強化合宿	9月	JISS
⑪ ユースエリート育成特別強化合宿	10～12月	JISS・NTC
⑫ 小学生柔軟性合宿	10月	JISS
⑬ ミックスデュエット対策男子選手強化合宿	5～7月	JISS
⑭ ミックスデュエット対策男子ジュニア強化合宿	11～12月	JISS
⑮ 世界選手権2019代表強化合宿	10～3月	JISS

(3) コーチ・役員 派遣・招聘

① 海外コーチ招聘	秋～冬	JISS
② FINA エバリュエーターセミナー役員派遣	7月	ハンガリー・ブダペスト

(4) 企画・研修および講習会

① 代表派遣選手選考会	2月	JISS
② 全国強化担当者会議	9月	JISS・NTC

③ コーチ・キャンプ	9月	JISS・NTC
④ ナショナルコーチ・国際審判員合同会議	9月	JISS・NTC
⑤ ブロック巡回指導ナショナルコーチ派遣	適宜	各ブロック
⑥ ナショナル審判強化研修	適宜	JISS
⑦ 審判研修会、レフリー派遣	年間	競技会開催地ほか
⑧ 競技者育成プログラムバッジテスト	年間	東京・大阪・加盟団体
⑨ ミックスデュエット対策男子選手講習会	4月・10月	東京・大阪

5. オープンウォータースイミング強化事業

ここ数年、オープンウォータースイミング（OWS）の国際大会におけるレースの高速化、トップ集団の多人数化、フィニッシュ直前での順位争いの激化と、レース展開の進化・変化が見られ、体力面・精神面・経験値の全てにおいて一層の資質向上の必要性を強く感じる。大会毎に競技環境もレース展開も大きく異なる OWS は、ラップ毎のスピード変化への対応力、レース展開を見据えた集団内での位置取りやペース管理等、競技中の直感的な判断力も必要であり、こうした感覚は実戦を多く積むことで養われるスキルであると言える。

本年度の重点強化事業として、マラソンスイミング（OWS10km 競技を言う）ワールドシリーズへの代表派遣を柱に、より多くの実戦経験を積む機会を持ちたい。

また本年度は、パンパシフィック選手権大会の日本開催があり、自国開催の優位性を十分に活かして、上位入賞・メダル獲得を目標に強化事業を進め、東京オリンピックに向けて弾みをつける年としたい。

U20（20歳以下）若手選手強化およびジュニア（高校生以下）強化体制については、前年の日本選手権 OWS 競技の結果を基に強化指定選手を定め、全豪選手権大会、世界ジュニア選手権大会の派遣を軸に、パリオリンピック（2024年）に向けた候補選手の発掘と育成も視野に入れた強化事業を進める。

昨年度のユニバーシアード大会で男子1500m 優勝者と男子OWS10km 優勝者が同一選手であったように、競泳と OWS の垣根も無くなりつつあることから、これからは競泳長距離選手との合同強化練習等も試みながら、両種目の成績向上に繋がるよう強化を進めたい。

(1) 国際競技会

① ワールドシリーズ	5月	セーシェル
② ワールドシリーズ	6月	ポルトガル・セトゥバル
③ ワールドシリーズ	7月	ハンガリー・バラトフレッド
④ パンパシフィック選手権大会	8月	日本・千葉
⑤ 世界ジュニア選手権大会	9月	イスラエル・エイラート
⑥ ワールドシリーズ	11月	UAE・アブダビ
⑦ 全豪選手権	1月	オーストラリア
⑧ ワールドシリーズ	3月	カタール・ドーハ

(2) 強化合宿

① パンパシフィック選手権大会 代表候補選手サポート合宿	5月	東京・JISS
② パンパシフィック選手権大会 代表候補選手強化合宿	6月	千葉・館山
③ 強化指定選手強化合宿	6月～9月	認定 OWS 大会開催地
④ パンパシフィック選手権大会	7月	アメリカまたはスペイン

	代表候補選手高地合宿		
⑤	世界ジュニア選手権大会 代表選手強化合宿	7月	千葉・習志野／館山
⑥	強化指定 B 選手強化合宿	7月	千葉・習志野／館山
⑦	ジュニア強化指定選手強化合宿	8月	千葉・館山
⑧	ナショナルチーム強化合宿	11月	東京・JISS (第一次合宿)
⑨	ナショナルチーム強化合宿	12月	東京・JISS (第二次合宿)
⑩	強化指定 C・D 選手強化合宿	12月	愛媛・松山
(3) 企画・研修および講習会			
①	強化コーチ会議	5月・10月	東京・JISS
②	国際審判員派遣	11月	UAE (ワールドシリーズ)

6. 科学事業

関係諸委員会、JISS、JOC、JSC、加盟団体などとの連携を深め、競技力向上に資する科学支援事業を展開する。競泳選手・コーチへのレース分析データの提供について、より一層の効率化を図り、国内の主要競技会で実施する。また、映像データ（水上）の提供を日本選手権で実施する。分析データの利用促進に向けてデータベース化の検討ならびに活用事例の紹介（月刊水泳連載）を継続していく。合宿における科学サポートも推進し、エリート小学生やナショナル選手の合宿で科学情報の収集やデータの分析・提供を行なう。飛込、水球、アーティスティックスイミング、OWS の各委員会および加盟団体が行なう科学サポートに協力するとともに、科学委員会が主導する各競技のサポートを模索する。教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会の活動に協力する。特に、同学会が計画している第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（2018年9月17～21日、筑波大学にて開催予定）の準備・開催に協力する。学会等における最新の科学的知見を広報委員会と連携し、月刊水泳等で広く周知することに努める。更に、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供と、養成講習会の講師派遣等に協力する。

(1) 競泳のレース分析・撮影

- ① データの公開・利用の促進（データベース化の準備含む）
- ② 第94回日本選手権大会 競泳競技におけるレース分析（全レース）
- ③ ジャパンオープン 2018（50m）におけるレース分析
- ④ 第86回日本高等学校選手権水泳競技大会、第58回全国中学校水泳競技大会、第41回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会等のレース分析
- ⑤ 第13回パンパシフィック選手権大会におけるレース分析
- ⑥ FINA競泳ワールドカップ東京2018におけるレース撮影

(2) 教育・啓発・普及活動

- ① 第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（9月開催）の準備・実施への協力
- ② 指導者資格付与制度への協力

- ③ 「水泳の日」 イベントでの水中撮影・映像提供（対象：一般スイマー）

（3）競技力向上に関する科学サポートの推進

- ① 競泳エリート小学生研修合宿における科学サポート（春・秋）
- ② 競泳ナショナル強化合宿における科学サポート（鈴鹿・富士・静岡）
- ③ 水球、飛込、アーティスティックスイミング、OWSの合宿等における科学サポート

7. 医事事業

2018年度は、これまで通り関係諸委員会、JISS、JOCとの良好な連携を保ちながら、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動および研究・調査・報告活動を行なう。具体的には、各種競技会における救護活動、日本代表選手団に対するメディカルサポート、強化指定選手へのメディカルチェック・アンチドーピング活動・障害予防プログラムの考案と実践、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的とした研究会やミーティングを実施する。

また、東京オリンピックでの活躍が期待されるジュニア世代へのメディカルサポート活動として、ジュニア合宿へのメディカルスタッフの派遣によるメディカルチェック、障害予防対策、女性選手のサポート、アンチ・ドーピング啓発等を行なう。更にこれらの活動を円滑に行なうために、各加盟団体の医事関連部門との連携を深める。

教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また、指導者養成講習会等への講師派遣を行なう。

（1）主要競技大会における救護・支援活動

（2）競技選手へのメディカルサポート活動

- ① 選手のコンディショニングおよび障害・疾病の管理
- ② アンチ・ドーピング活動
- ③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防プログラムの実践
- ④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動および調査研究活動
- ⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化

（3）教育・啓発・研究活動

- ① FINA医事委員会との協力
- ② 日本水泳ドクター会議・トレーナー会議への協力
- ③ 障害を予防するための研究・予防プログラムの開発・普及
- ④ 指導者養成講習会への講師派遣

V 普及事業

本連盟にとって、普及事業は強化とともに二本柱を成す重要な使命である。2018年度も、指導者養成事業、マスターズ水泳を主とした生涯スポーツ事業、国体正式種目である OWS

の普及事業、日本泳法保存事業、月刊水泳等の機関誌発行事業、ホームページ等を活用した広報事業に取り組む。また、スポーツ庁の国際貢献事業『SPORT FOR TOMORROW』、国際水泳連盟（FINA）の『Swimming For All - Swimming For Life』プログラムと連動した、水泳を通じた国際貢献事業の実施を検討する。なお、本年度が4回目となる『水泳の日』イベントについては、水泳愛好者や水泳ファンの拡大を目指すとともに、水難事故防止の観点から全国展開を推進する。

1. 指導者養成事業

水泳競技の普及振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、（公財）日本スポーツ協会と連携協力し指導者養成事業を実施する。

また、（公財）日本スポーツ協会が実施している指導者資格再登録、公認スポーツ指導者管理システム「マイページ」の活用、2019年4月に迫った指導者制度改定に関して、指導者養成事業3委員会が足並みを揃えて取り組む。

（1）地域指導者養成事業

- ① （公財）日本スポーツ協会スポーツ指導員に関する事業
 - (a) 指導員新規養成
 - (b) ブロック別主管団体による上級指導員新規養成（千葉・愛知）
 - (c) 指導員・上級指導員資格取得者の更新、登録
- ② 本連盟基礎水泳指導員に関する事業
 - (a) 基礎水泳指導員資格の養成・更新登録
 - (b) 養成事業に関わる督励・指導・助言
 - (c) アスリート基礎水泳指導員資格免除認定審議
 - (d) 免除適応校専門科目検定実施（北海道・東京・愛知・大阪）
 - (e) 免除適応コース実施校の開拓
 - (f) 全国地域指導者（普及）委員長会議の開催
- ③ 普及に関する研究事業
 - (a) 安全対策の研究および普及

（2）競技力向上コーチ養成事業

- ① 資格審査（年2回）の実施
- ② コーチ資格の新規登録・再登録・更新登録事業
- ③ コーチ研修会事業（コーチ11会場・上級コーチ2会場）
- ④ コーチ養成講習会事業の推進
- ⑤ 免除適応コース実施校の開拓

（3）水泳教師養成事業

- ① 水泳教師新規養成事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - (a) 適応コース講習検定会の実施（本連盟担当）
 - (b) 適応コース大学検定会の実施（本連盟担当）
 - (c) 適応コース認定校の新規開拓（本連盟担当）
- ② 新規養成コース講習検定会の実施（日本スイミングクラブ協会担当）
- ③ 「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ④ スキルアップセミナー in 東京の開催（本連盟担当）

- ⑤ スキルアップセミナー in 愛知の開催（本連盟担当）
- ⑥ 水泳教師資格の新規・更新登録事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ⑦ 水泳教師資格更新研修会事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ⑧ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

2. 生涯スポーツ事業

マスターズ水泳事業は、（一社）日本マスターズ水泳協会および（公財）日本スポーツ協会と連携し、日本スポーツマスターズ大会の更なる発展を目指し、開催地の大会企画・運営を支援する。

泳力検定事業は、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門と位置づけ、水泳技能に関わるスポーツ検定として推進する。

「水泳の日」事業は、2回目となる地方開催を東北ブロックの福島県郡山市「郡山しんきん開成山プール」（10月28日）にて開催する。実行委員会を中心として、（一社）福島県水泳連盟、郡山市および各委員会、関連団体と連携を密に図り、企画・立案・運営に全力を尽くす。

（1）日本スポーツマスターズ事業

- ① 「日本スポーツマスターズ2018水泳競技札幌大会」の開催（9月1日～2日；北海道札幌市 平岸プール）
- ② （一社）日本マスターズ水泳協会および（公財）日本スポーツ協会と連携した、大会の更なる発展
- ③ 新設した第9部の個人種目およびリレー種目280歳の部の普及

（2）「水泳の日」イベント開催事業

- ① 「第4回水泳の日2018 郡山」（2018年10月28日；郡山しんきん開成山プール）の開催
- ② （公財）東京都水泳協会が主催する「水泳の日TOKYO」（8月19日）との連携
- ③ イベントに関わる会議の企画・立案・運営
- ④ 各委員会および関連団体との連携・連絡調整

（3）泳力検定事業

- ① 泳力検定者および合格者の増加促進
- ② 特別泳力検定会（15会場以上）等の企画・立案・運営
- ③ 泳力検定優秀団体の表彰
- ④ 新設した6級および7級検定者の普及

（4）優秀登録団体表彰事業

- ① 水泳普及・振興活動を永続的かつ組織的に実施し、実績を挙げた団体の表彰

3. OWS 普及事業

- （1）OWS スイムクリニック、OWS 検定事業の開催
- （2）OWS 審判員養成（審判講習会の開催）

- (3) OWS 指導員養成 (指導員講習会の開催)
- (4) OWS 公認コーチ養成 (資格講習会の開催)
- (5) 認定 OWS 大会の標準化と拡大
- (6) 認定 OWS 大会サーキットシリーズ年間優秀選手表彰
- (7) OWS 国際審判員の養成 (FINA OWS スクールの開催)

4. 日本泳法保存事業

それぞれ年1回開催する日本泳法大会ならびに日本泳法研究会を通じて、現存13流派泳法の保存と普及を図る。日本泳法大会では競技および資格審査を行なうが、流派を問わない公平・公正・適正な演技評価が選手のモチベーションアップと演技審査の質的向上に繋がることから、原則年2回の審判研修会を実施する。資格審査は、2014年度に導入した7資格制が定着してきていることから、引き続き、上位資格への積極的なチャレンジを推奨し、泳法研鑽継続の動機付けとして推進する。日本泳法研鑽会は、昨年度初めて参加資格を拡大して試行実施したが、本年度も同様に実施して状況を見極め、その内容を次年度以降の施策に反映させる。また、資格審査の大会時以外での開催(游士出張審査)についても、昨年4月に和歌山で試行開催して一定の成果があったことから、今年度も継続開催するとともに、関東圏での開催も検討する。更に、日本泳法が日本独自の水泳文化であるとの認識のもと、その保存および継承の実際を伝えるための広報活動を強化する。

- (1) 游士審査会 (和歌山会場) 4月22日 和歌山県秋葉山公園県民水泳場
- (2) 第63回日本泳法大会 8月18～19日 鴨池公園水泳プール (鹿児島)
 - ・泳法競技、同ジュニア、団体泳法競技、同シニアクラス、支重競技、横泳ぎ競泳
 - ・游士、練士、教士、範士、修水、和水、如水の資格認定
- (3) 第67回日本泳法研究会
 - ・課題「小池流」 3月16～17日 日本ガイシアリーナ
 - (3月16日の講義はホテル名古屋ガーデンパレス)
- (4) 第11回日本泳法研鑽会 3月17日 (上記日本泳法研究会後に実施)

5. 機関誌発行事業

機関誌「月刊水泳」の第一の使命である記録、成績、報告の掲載に重点を置いた編集を心掛ける。収支改善のため、いたずらにページ数増を目指さない。また、定期購読者を増やすべく、水泳ファンにも購読してもらえ「楽しい」誌面作りを目指す。

6. 広報事業

- (1) ホームページ
 - ① 「より速く」を目指し、ページ更新を迅速に行なう。これまで以上に各委員会が直接ページ更新をする割合を増やし、支出削減も目指す。
 - ② 強化関連各委員会のブログとの「棲み分け」を図る。
- (2) 報道対応

東京オリンピックを控え、水泳に対する注目度もアップしていることから、競技委員会、総務委員会、事務局等と連携して、正確な告知、迅速な対応を図る。

7. 国際貢献事業

- (1) 英語版水泳指導 DVD の制作検討
既存の水泳指導 DVD（日本語版）を活用した英語版の制作検討
- (2) 要請に応じた水泳指導者の海外派遣制度の検討
指導力と語学力を兼ねた水泳指導者の海外派遣制度の検討

VI 組織運営のための共通事業

先達が築いた水泳ニッポンの歴史・伝統・礎のもと、組織力の一層の強化を図り、競技団体としての価値向上に資する高潔・公正な組織運営を徹底する。

1. 総務関係事業

本連盟各種会議および地域会議の準備・開催を通じて、内外の関係者・関係団体との情報共有および意思疎通を図り、円滑な業務遂行を図る。本連盟を取り巻く社会環境の変化に即応した各種規程の新規策定および改定を遂行する。本連盟事務局の労務環境を管轄し、各種業務の効率化を目指す。

2. アスリート委員会事業

- (1) FINA アスリート委員会への提言を目的とした意見集約
 - ① アスリートの意見集約
- (2) JOC アスリート委員会との連携・連動
 - ① アスリートの意見集約
 - ② オリンピック・ムーブメントの推進（JOC アスリート委員会との連携、協力）
 - ③ アスリートの社会的地位向上に関する活動
- (3) ジュニアアスリートへの啓発活動
 - ① 各競技ジュニアオリンピックカップでのオリンピック・栄養士・トレーナー等による研修講演
 - ② アンチ・ドーピング活動の推進（JADA、（公財）日本スポーツ協会、本連盟アンチ・ドーピング委員会との連携、協力）
- (4) 水泳普及活動および社会貢献活動
 - ① 国民体育大会開催地における水泳普及活動（オリンピックによる講演、指導、教室、ほか）

- ② 障害者水泳の普及活動支援（オリンピックによる講演、指導、教室、ほか）
- ③ 必要に応じた慈善活動の立案、実践（オリンピックによる各種募金活動、慰問活動、ほか）

- (5) オリンピアンOB・OG会の連絡ツール作成
 - ① 連絡ツールの作成（メールアドレスの登録）

3. 特別委員会事業

- | | | |
|--|--------------|-------|
| (1) 財務委員会
免税募金事業の推進 | 財務委員長 | 堀 正美 |
| (2) 競技者資格審査委員会
競技者資格の審査 | 競技者資格審査委員長 | 泉 正文 |
| (3) 選手選考委員会
国際競技会派遣日本代表選手団の選考 | 選手選考委員長 | 青木 剛 |
| (4) 指導者養成委員会
指導者養成制度の推進と資格認定審査 | 指導者養成委員長 | 設楽 義信 |
| (5) 国際委員会（FINA・AASF）
国際関係の情報共有推進と国際競技会の招致企画 | 国際委員長 | 緒方 茂生 |
| (6) アンチ・ドーピング委員会
アンチ・ドーピング活動の計画と推進 | アンチ・ドーピング委員長 | 鈴木 陽二 |
| (7) スポーツ環境委員会
スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進 | スポーツ環境委員長 | 齊藤 由紀 |
| (8) 倫理委員会
倫理、社会規範意識の啓発と指導 | 倫理委員長 | 坂元 要 |
| (9) 危機管理委員会
緊急時対応および危機管理意識の啓発と指導 | 危機管理委員長 | 青木 剛 |

Ⅶ 組織運営および財政基盤の確立

「水泳ニッポン・中期計画2017－2024」に基づいて、各専門委員会を中心に、事業内容の精査・充実を推進する。各事業の遂行は、各加盟団体の協力を得て実施することはもとより、スポーツ庁、（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本オリンピック委員会等の関連団体とも連携を図り実施する。組織運営に際しては、ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底により、組織力の強化を図る。財政面においては、全体の収支バランスを考慮し、有効適切な事業の執行、予算管理の徹底を図る。